

《海外研究室事情 (25)》

Department of Astronomy, University of Virginia

米国バージニア大学天文学科

<http://www.astro.virginia.edu/>

天文月報の最後のページを見て頂くとわかるのですが、私は月報の編集委員でもありません。アメリカ在住ということで、日ごろ他の編集委員の方にかけているご迷惑の償いも兼ねて(?)、今回滞在しているバージニア大学天文学科を紹介させていただきます。

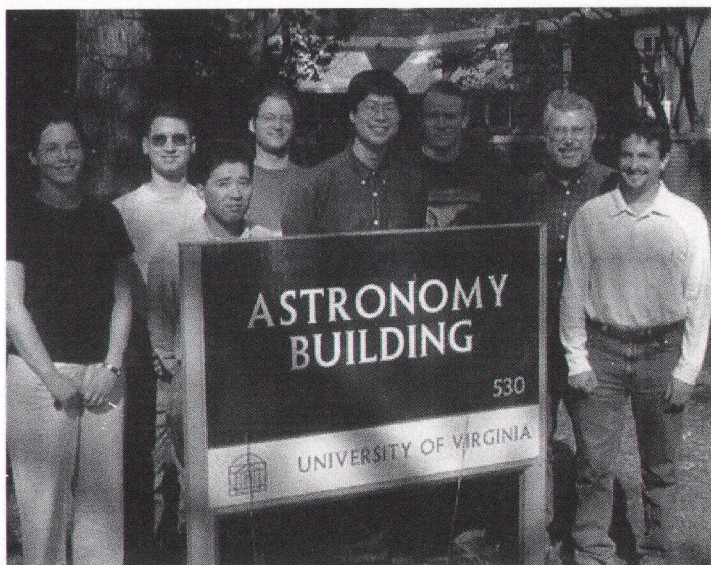
バージニア大学 (以下 UVa) は、ワシントン DC から南西へ車で 2 時間ほどの小さな町、バージニア州のシャーロットツビルにあります。シャーロットツビルは、歴史のある緑豊かな町です。車で 15 分も走れば、まるで絵葉書を見ているような素晴らしい景色が広がります。毎朝、林の中を通って大学に行く途中に、よくリスが走り回っているのを見かけます。UVa はかの有名な、アメリカ建国期の政治家である第 3 代大統領トーマス・ジェファソンによって 1817 年に設立されました。UVa の設立は彼の 3 大業績の 1 つとして数えられているほどです。ジェファソンは建築家でもあり、彼が設計した建物も残っています。天文学科は UVa の敷地内の、どちらかというと端の方の静かな場所にあります。歩いて 10 分ほどのところには、米国国立電波天文台(NRAO)があり、ゼミなどで交流があります。

タイトルのところに書いた天文学科のホームページをご覧になって頂くとわかるのですが、ここでは様々な波長による観測や理論、白色矮星や惑星系といった小さな天体から宇宙論まで、様々な研究が行われています。スタッフのリストを見て頂ければ、皆さんも知っている人をきっと見つけら

れることでしょう。構成員の数はここ数年で急激に増加しているようで、現在スタッフ+ポスドクが 28 名、学生が 19 名となっています。3 年前に手狭になった前の建物から引っ越してきたそうなのですが、すでに現在の建物も窮屈になっています。

さて私はここでは X 線天文学の研究で有名な Sarazin 教授の X 線グループに属しています。Sarazin 教授は観測と理論の両方を行う研究者で、ここには Chandra や XMM-Newton のデータが続々と集まっています。私が 2000 年の春にきた当時は、グループは私と Sarazin 教授のほかに PD 1 人、大学院生 2 人だったのですが、新学期からはイスラエルから来た Soker 教授がサバチカルで滞在しており、さらに日本から山形大の滝沢助手、大学院生 1 人、ドイツから PD 1 人が加わりました。メンバーはそれぞれ観測や理論的研究をしています。観測屋と理論屋が同居していると、お互い最新の情報がリアルタイムで当たり前のこととして交換できるので、とても刺激になります。私はもともと理論研究者なのですが、せっかくなのでここでは理論研究のほかに Chandra のデータを解析しています。Chandra は現在でもキャリブレーションや解析ソフトの更新が続いており、なかなか私 1 人では追いつけません。研究室の中で、お互いにキャリブレーションの出来具合やソフトのバグの情報を交換しながら、解析を行っています。

天文学科での日常を紹介しますと、月曜日には天文学科でコロキウム、火曜日には NRAO でランチゼミ、木曜日には NARO でコロキウム、金曜日に研究グループのでランチゼミというのが定まった



X線グループの人たち。右から4人目が私、右から2人目がSarazin教授。

行事です。コロキウムやNRAOでランチゼミは学外の人が発表することが多く、活発な研究交流の一端を示しています。ランチゼミ以外の通常のランチは研究室のスタッフの多くが一緒になって学外のレストランに出かけるのですが、出かけるところはいつも決まっています。全く開拓しようという気がないのが不思議です。日本と比べると朝が早いように思います。9時ぐらいにはみな活動を開始しています。もっとも昼ぐらいにならないと全員集まらない日本の研究室のほうが問題なのでしょう。天文学科全体でピクニックを行ったり、ハロウィンパーティを行ったりもします。

11月号で田中氏が述べられていたように、ここではスタッフの研究費は主に外部にプロポーザルを出し、取って来ることによりまかなわれます。さらにここでは遠距離電話、郵便、FAXといった通信費もそういった研究費より支払われます。従って、アメリカにそのような研究費がない在外研究員の私は、いちいち自腹で払うことになっています。通信に不自由がないと述べられた田中氏とは少し違うようです。もっともこの点に関しては在外研究員の研究費はまとめて日本で頂いている

ので、文句は言えませんが。一方、お金を外部から取ってくる以上、広報普及活動も重要と考えられています。例えば月に二度ほどPublic Nightと呼ばれる観望会を行っています。日本の国立天文台の観望会みたいな感じです。

皆さんご存知の同時多発テロ以降、アメリカはすっかりその話題で持ちきりです。せっかくですのでこちらの様子をお伝えしたいと思います。ここの天文学科の人で9月11日のテロと遭遇した人は幸いいないのですが、直後にニューヨーク在住の天文学者からそのときの様子を克明に述べたメールが送られて来たりしました。現在(11

月初旬)は炭疽菌騒動が話題の中心です。郵便物を触った後は手を洗いたくなります(あまりまじめには洗っていませんが)。CNNはいつも「AMERICA STRIKES BACK」という見出しを掲げてニュースを流しています(以前はAMERICA'S NEW WARだった)。日本大使館からはよく新たなテロへの注意を促すメールが届きます。インターネットで日本の様子はわかるのですが、どうも他人事のように捉えているように感じます。仕方ないことなのでしょうけど…。日本では「対米支援」が問題になっているようですが、こちらのテレビニュースで日本のことが話されていることはほとんどありません。そもそも期待されていないような気さえします。私の周りの人たちは冷静な人が多いのですが、反撃(最近は報復とはあまり言わない)は必要と感じている人が多いようです。町全体としては星条旗をよく見るようになりました。掲げている家もありますし、車に取り付けている場合も多いです。この記事が皆さんの目に留まるころは少しでも事態が好転していることを期待します。

藤田 裕(国立天文台理論天文学研究系)